

WEEKLY SIGNAL

平成28年12月9日(金) 1353号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	12/12 (月)	12/13 (火)	12/14 (水)	12/15 (木)	12/16 (金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	△ 800	△ 1,000	△ 2,000	△ 3,000	△ 3,000
財政他	△ 28,100	+ 1,000	+ 26,000	+ 59,000	+ 2,000
資金需給	不 28,900	ト ン	+ 24,000	余 56,000	不 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還 (3M・6M) 10年物価連動国債償還		源泉税揚げ	年金定時払い 国債発行・償還(2年)	交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,900 CP等買入 △ 400 国債補充供給 + 100			貸出増加支援 △ 9,600	
オペスタート	共通担保(全店) + 2,000 ETF買入 + 300	国債買入 + 11,200 短国買入 + 12,500			
(日本)	機械受注(10月) 企業物価指数(11月)	マネタリーサーベイ(10月) 日銀営業旬報告 (12月10日現在) 日本銀行が保有する国債の 銘柄別残高 日本銀行による国庫短期 証券の銘柄別買入額	日銀短観(12月)	日銀短観「企業の物価 見通し」(12月)	業態別の日銀当座 預金残高(11月)
(海外)	米 財政収支(11月)	米 FOMC(14日まで) 米 輸入物価指数(11月)	米 FOMC、声明と 経済予測発表 米 イエレンFRB議長、会見 米 小売売上高(11月)	米 消費者物価指数(11月) 米 NY連銀製造業景況指数 (12月) 米 NAHB住宅市場指数(12月) 英 BOE、金融政策発表	米 住宅着工件数(11月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.05 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初309兆8,400億円から始まった。その後、国債買入オペ・国庫短期証券買入オペを主因に増加し、週末には312兆5,500億円となった。無担保コールON物は、先週に引き続き△0.085%~△0.03%のレンジで取引された。なお、同加重平均金利は、週初から週央にかけて△0.056%~△0.052%で推移したが、週末となる12月9日は△0.050%となった。ターム物は、1W~2W物を中心に△0.03%~△0.01%で取引された。

日銀は9日、当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率(2016年12月~2017年2月積み期間適用分)を13.0%に定めた。ECBは8日、2017年3月末に終了予定の量的金融緩和政策の実施期間を、同年12月末まで9か月間延長することを決定した。一方、資産買入額については来年4月以降、現在の月800億ユーロから月600億ユーロに縮小する方向となった。

ドラギ総裁は会見で、買入額縮小はテーパリングではないとし、経済状況見通し等が悪化した場合は、プログラムの期間延長や買入規模の拡大を実施する方針であると述べた。

来週の予定は、国内では、日銀短観(14日)、海外では、FOMC(14日まで)等が挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.400 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約6,000億円で、期落ち額約5,500億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。賞与見合いのニーズが一巡し、大量発行は限定的であった。

a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。

現先レートの中心は、△0.100%~0.000%程度で推移した。

来週の期落ち額は6,100億円程度となっている。

<TDB>

8日に国庫短期証券3M第651回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.3903%(前回債△0.3330%)、平均落札レートは△0.4032%(同△0.3408%)と前回債と比べて利回りは大きく低下した。セカンダリーは3Mで△0.450%近辺の地合いとなっている。6Mは△0.345%近辺の地合い、1Yは目立った出合は見られなかった。来週15日に3M、16日に1Yの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初、△0.09%台の水準から始まった。週央までは同水準で推移し、TDB3M・6Mの発行日となる12日受渡しでは△0.085%まで上昇した。週末には国庫短期証券・国債買入オペが合計2兆3,700億円オファーされ、△0.095%近辺までレートが低下し越えた。

SC取引では、週を通して10年344回債のビッドが多く、一時△0.30%台での出合いも見られるなどタイト化した。その他2年370回債、5年125・127・128・129回債、10年329・330・331・332・334・335・341・342・343回債、20年158回債、30年50・51・52回債、40年9回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。